

主の御名を賛美します。

『わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。』

(詩篇 103:2)

いつも石巻宣教のためのご支援とお祈りを心から感謝いたします。



世界中に猛威をふるう新型コロナウイルスによって、私たちの日常生活はなんと脆いものであるかを思い知らされ、同時に変わらないお方の存在を強く意識させられる日々が続いています。

非常事態宣言の解除を受けて、ようやく私たちの住む渡波も日常を取り戻しつつあります。

教会駐車場のためにお祈りくださって本当にありがとうございました。心から感謝し、ご報告をさせていただきます。

土地所有者の方からの打診を受け、去年の3月に購入が決まってから一年余り、今年3月に契約を結び、5月に宗教法人(仙台福音自由教会)の境内地認可が降り、登記も完了しました。今年はコンサートなどの集会を開催することができず、せっかくの駐車場も空いたままでした。しかし近隣のお宅から、法事のために駐車場借用の打診があり、使っていただきました。すると、敷地の整備工事をされるお宅からも…と広がり、近所の方々に利用して頂く機会が続きました。今までは挨拶を交わすだけのご近所さんとの会話が、自然と弾むようになったのです。駐車場は、「主の愛を現わす」良い働きをしています。主のなさることは不思議です。

様々な集会が再開できるようになり、教会駐車場としての本来の役割を果たせる日が、早く来ますように。また、救われる魂が起こされ、日曜日には主を礼拝する人々の車で、満車となることを心から願っています。

いつもお茶っこ会に来られている御婦人から、エンドウ豆の苗を頂きましたが、つるが巻きつくための竹は渡波の強風で倒れてしまいました。



そこで、ヒモに変えたところ、ぐんぐんと成長し花を咲かせるようになりました。そして、花の後に実をつけているのを発見し感動しました。つるが、ヒモに何重にも巻きついている姿をみると、自然の不思議さと強さを感じます。

そして、教会の在り方が、ここに表されているような気がしました。

教会の働きも、このエンドウ豆のように花が咲き、すぐに豊かな実がなれば良いのですが、まずはつるが何重にも巻きつくように、しっかり地元の方々に教会を受け入れていただく時間が必要です。どれぐらいの時間がかかるのか、それは分かりませんが、駐車場は、そのきっかけを与えてくれている、と感じました。地道に、忍耐の限りを尽くしてキリストの愛を、お伝えすることが肝心なのかもしれません。

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 13:34)

私たちが、キリストの愛をしっかりと受け取って、この地で歩めるようにお祈りを願います。

ところで、前回の報告で、五十年前のこの地に、神様がお二人の宣教師を遣わしてくださっていたことを、驚きをもって書かせていただきましたが、その続編があったのです。

石巻宣教のために、全国の諸教会、敬愛する兄弟が、祈りの手を挙げ続けてくださっているのですが、その中のひとつN教会の国内外宣教祈祷会の世話人の方を介して、4月中旬に下記のメールが届いたのです。ここに、ご本人の了解をいただき、お分かちしたいと思います。

『石巻ニュースをありがとうございました。』

今回は驚きました。ニュースに出て来た二人のアメリカ人女性宣教師、ボーエンさんとフライシュマンさんは、私が結婚前に「聖書を読む会」を立ち上げるために一緒に働かせていただいた方たちです。二人と最初に知り合った頃、二人はK G Kの主事をされていました。私が働いていた日本女子大学で学生聖研の指導に来られたボーエンさんと知り合い、とても仲良しになりました。

ボーエンさんを囲んで、高円寺の実家で「聖書を読む会」を始めさせていただき、私の母やその友人たちが主を信じ、洗礼に導かれました。感謝に耐えない思い出です。

その後お二人ともK G Kを離れ、Y・Tさんと共に「聖書を読む会」の働きに専念されました。そのころ私はこの働きの助手のような立場でしたが、4人でよく集まって、手引書の出版や、聖書を読む会の研修会などのために知恵を出し合って、祈ったものでした。

お二人は高齢になられてアメリカに帰られ、オレゴン州ポートランドの宣教師のリタイアメント・ハウスに住んでおられました。学会で西海岸に行った際に、一度お訪ねしたことがありました。

今は二人とも天に召されています。若い頃、東北で伝道していたことはお聞きしていましたが、今回、思いがけずにその働きの実を教えていただき、感動しました。ありがとうございました。』

神様は、新型コロナウイルス感染拡大の嵐という中に立ちすくむ私たちに、この海辺の町に、主が遣わされたお二人の宣教師の姿を通して、すべての出来事は主のご支配の中にあるのだ、と語ってくださいました。主はまことに生きておられます！

4月、5月の教会の様子はというと、集まることが難しい状況の中で、礼拝をWeb配信する設備もなく、その知識も乏しく、また、ほとんどがご年配者ですから、スマホを持っておられる方も

少数です。ですから消毒、換気、マスク等の対策で、通常通りの礼拝を続けることにしました。

日曜日の朝ごとに防災無線で流れる大音量の「外出自粛放送」を聞きながら、ひたすら礼拝の守りと地域の守り、祝福を祈るドキドキの日々でした。

テレビから流れる新型コロナウイルスのニュースを毎日聞き、恐れるあまり、まったく外出しない方もおられます。それでも、4~6人ぐらいの方が毎週集い、礼拝が守られてきたことを主に心から感謝しています。

このような状況の中、例年のように地域の皆さんをお招きしての「イースター礼拝」はできませんでしたが、仙台教会からイースターエッグのポップリヤリースが届きました。イースターエッグはコンサート用にと送られてきていたお菓子やイースターカードとともに、近隣の方々にお届けしました。皆さん、訪問をととても喜んでくださいました。



しかし、礼拝後の昼食の交わり、月二回の「お茶っこ会」そして月一回の「クラフト教室」は中止することになりました。何とも、寂しい限りでした。

新型コロナウイルスのニュースを聞くたびに、弟子たちのイエス様への質問を思い出します。「いつ、そのようなことが起こるのですか。あなたが来られ、世が終わる時のしるしは、どのようなものですか。」(マタイ 24:3) これに対し、主はお答えの最後に「これらのことがすべて起こるまでは、この時代が過ぎ去ることは決してありません(マタイ 24:34)」と語られました。

これから先、イエス様が語られたように再臨の前兆は必ず起こると、心にしっかり刻んで、これからの福音宣教の在り方を考えていかなければならないと痛感しています。

私たちに知恵がなくとも、全知全能の主がおられることに感謝し、良き知恵が与えられるように祈り求めていきたいと思っています。

【祈りの課題】

1. 主が、まことの神を求めの方々を起こしてくださり、礼拝につながりますように。
2. イエス・キリストを信じ、救われ、洗礼を受ける方が起こされますように。
3. 月二回、第一と第三金曜日の「お茶っこ会」と月一回の「クラフト教室」が、神の御心の時に再開できますように。
4. 新型コロナウイルス感染から教会、地域の方々が守られますように。

☆石巻宣教支援会へのご支援と、お祈りを心から感謝します。